

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600704		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム今里		
所在地	南松浦郡新上五島町今里251-32		
自己評価作成日	令和4年3月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所の理念である「真愛」「もっと笑顔で、自分らしくを大切に」をモットーに立地条件を活かした地域密着を目指しております。利用者様が共同生活をするに当たり、職員がそれを援助するという、グループホーム本来の姿を実現するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保市に本部を置く社会福祉法人長崎友愛会が運営するホームで、職員は「真愛」、「もっと笑顔で、自分らしくを大切に」をモットーに介護実践に努めている。周囲を海と山に囲まれた環境のもと季節の移り変わりを感じることができる自然豊かな場所に立地している。ホームに隣接して小規模多機能ホームがあり、災害時などの緊急時には事業所の職員同士が互いに協力する体制を整えている。コロナ禍以前は、小規模多機能ホームの利用者や近隣の小中学校と交流し、中学生の職場体験の受け入れや、小学校の先生が転勤の挨拶に立ち寄られる等、積極的に地域との交流に取り組まれており、地域に溶け込んだホームとなっていることが窺える。職員の離職率は低く、職員間のコミュニケーションも良好に取れており、家族的で穏やかな雰囲気のあるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度は「コロナ禍」の為、地域や小学校との行事にも参加出来なかったが、例年は地域との交流を心掛け、地域に根差した事業所を目指しております。	理念をフロアに掲示し、日々の介護実践の中で活かせるよう職員へ意識付けを行っている。入居者支援に関する振り返りの機会として、職員それぞれが年度目標を策定し、半年ごとに振り返りを行いながら、あらためて理念に沿った支援の状況を管理者と確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の『父母の日の集い』夏の『納涼祭』秋の『敬老会』には地域の方や老人会の方にも参加して頂き交流を深めている。今年度はコロナ禍のため中止した	現在、コロナ禍により地域との交流を自粛している中、郷(町内)の恒例行事である草刈りに地域住民と共に参加ができた。例年は各種行事への参加、ボランティアの受入れ、中学生の職場体験、近隣小学児童のホーム訪問等、様々な地域交流の機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ地域の方々との関係ができ、今後は施設見学をして頂く話をしている。施設についての質問などある時は、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は「コロナ禍」の為会議を文書でのやり取りとした。2ヶ月に1回、12月のみ対面会議。今後もメンバーの意見を取り入れていきたい。	運営推進会議は、家族代表、地域住民代表、行政職員、有識者等が構成メンバーとなっている。コロナ禍の中、書面会議により定期的開催している。書面会議を行う場合は事前に意見書を用いて構成メンバーへ要望や意見を確認し、ホームに対し質疑等があった場合は個別に回答書により回答を得ると共に運営推進会議時にも語り意見等を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	健康保険課の方が、運営推進会議に参加されているので情報をとりあえる。地域包括の方から問い合わせなどあるので協力出来る事には対応させていただいている。	運営推進会議を通じて行政担当者と情報交換を行っている。介護職員の人材確保策に関し、地理的ハンディキャップを抱える離島地域の対策の一環として、関係団体等と連携し行政担当部署へ相談、提案等を行うなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議の中で内部研修をしている。最近では、小さな事柄でもご本人にとって拘束にあたらぬのか？と、皆で検討するようになってきている。	訪問調査日現在、身体拘束に該当する事例はない。入居者の夜間帯における転倒防止を目的としたセンサーマットの使用について家族へ説明し、同意を得ている。身体拘束禁止、虐待防止対応の規程を整備し、身体拘束委員会の開催と定期的な職員研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、虐待の委員会があり会議の中でも気になることは話合うようにしている。よいケアが提供できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、1名の方が活用された。一部の管理者だけが携わった為、職員への周知には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員、管理者が担当し、納得して頂ける様、心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、話す時間がもてるようにしている。ご家族によっては話しやすい職員に意見を言われることもあり、情報を共有し対応するようにしています。ご意見箱を設置していますがそこに要望等入っていることはないです。	コロナ対策として、入居者との面会はガラス越しで短時間に実施することとしている。家族の要望や意見は病院受診の結果を報告した際に聴くようになっている。家族の意見や要望は送りノートへ記載して職員間で共有すると共に、必要に応じて担当者会議へ諮り介護計画書にも反映している。	職員の入退職に関し、現在、職員異動や退職者もなく安定していることもあり、家族へ職員紹介は行われていない。アンケート調査において「事業所での職員の異動、入・退職等について、ご家族に報告がありますか？」の問いに半数以上が報告なしと回答があったことを踏まえ、家族への情報提供の一環として、例えば運営推進会議に職員異動や入退職者を報告し議事録を送付するなど家族との信頼関係の構築に繋がるよう工夫することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議に参加するので、提案、意見を言える環境にある。組織の環境が整い、内容によって相談など話しやすい環境がある。	毎月、法人本部にて開催する全体会議のほか、主任会議やフロアミーティングを行い、職員と意見を交換している。職員は管理者と個別に面談を行い、職員の意見に対し必要な部分は即時に対応している。管理者と職員間のコミュニケーションも円滑で、入居者への良質な支援に繋がっている。職員のハラスメント対策は法人全体として組織的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、給料の見直しなどあり又、ホームでの取り組みの努力など理解し評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行われており、外部研修の案内をホームに情報提供して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の繋がりがあり、地域から他の事業所、施設との繋がりは深い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、ご本人、ご家族共に話す時間をとり電話での連絡をいつでも取れるようにし不安なくサービスの利用ができるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで困ったことや、これからの不安を傾聴しご家族との関係づくりに努めています。ご本人はもちろん、ご家族の支援をすることも常々代表が言われている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、ご家族の状況を判断しその時に必要なサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの中では、出来る事の参加をさせていただいているのでご利用者の中には、ここに仕事に来ていると思われている人もいらっしゃる。職員も、ご利用者に支えられていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況によっては、外出、受診、外泊などの協力をいただいている。今年度は面会を中止状態です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援時(ドライブ)は出来るだけ地元を通るように心掛けている。	入居者の馴染みの関係先や場所等について、入居後に把握した入居者個別の情報を送りノート及び個人記録で共有し、支援に活かしている。病院受診を利用して、車中より入居者宅を見てもらう機会を設けたり、牧師のホーム訪問や、行きつけの美容院を継続できるよう支援するなど馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を把握した上でご利用者同士の支え合いができるようにしているため、自然と、関わり合いができています。時により、職員が間に入り円滑にいくよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	離島という地域の特性もあり、退所されてからも町であったりすると挨拶や会話をし、関係性を継続出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えられる方の希望や意向は、日々の会話から把握し、情報を共有するようにしている。失語症の方が、把握出来にくい表情やジェスチャーで本人の訴えを少しでも理解するようにしている。	職員は日々の生活を通じて入居者から得た新しい発見を個人毎の情報ノートに記録し、職員間で共有している。意向の表出が難しい入居者の思いを表情やジェスチャー、声の掛け方等を工夫し、本人の反応を見て判断し、理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や以前の担当の方からの聞き取りを行い把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんど方に、目が届くので過ごし方、心身状態、有する力は、状況が変わってきたのも把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問看護の方々へ相談することもある。又、訪問看護は毎週こられるのでアドバイスを頂く機会も多い。プランに入れてなくても日々のケアの中に反映している事もある。	ホームでは入居者毎に担当職員を選任し、受診記録、情報収集等、入居者本人の課題の抽出を行い、フロアミーティングにおいて検討するとともに、介護支援専門員が介護計画を3か月毎に見直し作成している。主治医、訪問看護師には事前に助言を得て現状に即した介護計画の策定に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき、工夫している事があるが個別の記録が細かく書けていないので、以前からの進歩がない。申し送りノートは情報共有に活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせられる事は、他からの協力を得ながら対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員、ご家族での支援を行っている。本が好きな方は購入したり、職員が買い物を代行したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の特性で病院は上五島病院のみだが、皆様主治医が決まっており、適切な医療支援は行えている。	ホームは長崎県上五島病院を協力医療機関とし、毎月一回の受診を基本とした職員による同行支援が行われている。歯科の受診は随時往診による対応である。入居者の症状に応じて訪問看護を利用し、急変した場合など緊急時の対応についても医療機関等と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の日に、聞きたいこと伝えたいことは職員間でその日出勤する職員に伝え、当日、伝えてもらっている。看護師さんも必要に応じ病院との連携をとっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況の判断を病院と連携しながら連携室の担当の方と連絡を取り合い、退院後の事まで検討し安心して入院治療が出来るようにしている。早期に退院できる時は、すぐに対応するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族とは元気な時に話をするよう心掛けている。ホームで出来る事は説明しており、環境や医療の必要性に応じての移動の旨も伝えている。	看取りの指針を作成し、入居時に説明し同意を得ている。医師による看取りの判断のもと、家族に意向を再確認にした上で看取りの支援に努めている。看取り期にあたり医療機関、家族、ホームの間で協定書を締結し、最期を穏やかに過ごしていただけるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていないが、看護師のサポートも有り、内部研修をするなどして対応は出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年度は2回、立会と自主訓練を行った。2回とも夜間想定。自然災害については計画書を職員全員に配布し、内部研修をした。	併設している小規模多機能ホームと合同で、夜間帯を想定した消火、避難、誘導訓練が行われている。入居者の誘導に近隣住民や消防団員の協力体制を構築している。備蓄は上五島町の5か所に備蓄を確保しており、管理者は必要時に使用可能と考えている。尚、新上五島町災害時備蓄計画(令和元年8月)においては事業所内で3日分以上の備蓄等を推奨するとしている。	緊急時の持ち出し用として入居者一覧表を整備しているが、避難先や協力いただける地域住民へ入居者情報を円滑に伝えられるよう入居者の全身写真(歩行補助具を含む)、内服情報、既往歴、保険証番号の記載等を入居者情報一覧へ加え、整備することが望ましい。また、居室より入居者を避難させた際の居室の確認方法を取り決め職員へ周知することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理事長が、尊厳を大切に敬う気持ちで接する事を言われています。職員同志で気になる言動がある時は、注意するようにしています。汚染のある時は、部屋に誘導し対応し恥ずかしい思いをさせないなど気がけるようにしています。	職員は親しみのある表現や言葉遣いとして、五島特有の方言を使用しているが、入居者の尊厳を損なわないよう配慮している。法人理事長は尊厳を大切に敬う気持ちで接する事を職員へ周知し、実践に努めている。職員に対する接遇研修を法人の内部研修の中にも取り入れ、職員は接遇マナーの対応を心がけている。今後はリモート研修を受講できるよう計画している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話せる方もいますが、そうでない方には職員のほうから思いを聞き出すよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出に関しては、なかなか対応できないところがあるが、ホームの中では起床の時間や、食事、入浴など個人のペースが違う時は、本人本位に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で、髪につけるもや洋服など欲しいものがある方には、気に入るものを購入してもらったり、アクセサリーに興味がある方は家族とも協力しておしゃれをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の生活から嗜好を気に掛け、出来るだけ好きな物を摂取して頂ける様に心掛けています。テーブル拭きのお手伝いをしてもらったり、下膳のお手伝いなど一緒に出来る方は積極的に行われている。	食事は調理担当職員が調理することを基本としている。食事メニューはホームの在庫食材を使用し、前日と重複しないよう配慮している。地域住民から鮮魚や旬の野菜の差入れがあり、季節感のある食事を提供している。土用丑の日に鰻を食卓に並べる等、行事食も提供し食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量も、個人差があるので体重測定や血液検査等で十分なのか確認している。水分を摂る量が少ない方には声かけたり、好きな飲み物を出しできるだけとってもらっているようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ準備を行い介助や声かけの必要な人には、職員がついて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方には、排泄の時間を見て昼、夜、声をかけたり尿取りの確認をするようにしている。	ホームでは排泄チェックリストに基づき、定期的にトイレ誘導を行う等、本人のタイミングに合わせた排泄ケアに努めている。失禁時の対応では職員は言葉かけや自尊心に配慮し支援している。家族への金銭的負担に配慮し、リハビリパンツ、パッド類の適正な使用量やサイズ等をフロアミーティングで検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂る事、適度に体を動かす事、食事は野菜を多く使うなど心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴は行いペースはある程度決めていますが、その方に合わせたお湯加減や時間のとり方をしている。	入浴は週2回、1日当たり3～4名を基本として支援している。湯温43℃～44℃、30分程度の入浴を支援しているが、本人が入浴を拒否したり、重度者や皮膚疾患の場合には状況に応じた支援を行っている。浴室、脱衣室それぞれに冷暖房設備があり、ヒートショック対策に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で、休みたい時は部屋に戻り休んでいただいている。空調も気持ちよく休んで頂けるよう管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に、薬の説明書を綴じていつでも見れるようにしており、頓服で出されるお薬は申し送りや薬箱に貼り把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行動を職員の都合で決める事をせず、ご本人に任せる様にしている。但し、体操やレクリエーションの際は全ご入所者に声かけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり行えていないのが現状だが、天候なども相談し、事業所周りの散歩やドライブに行くように心掛けた。	コロナ禍で遠出の外出は自粛しており、病院受診を利用し入居者が希望した場所へ車中から眺められる支援を行っている。また、ホームの周囲が自然に恵まれており、好天時には手引き歩行や車椅子を使用して近隣を散策し、草花鑑賞や住民と挨拶を交わすなど気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方で管理しているのが現状だが、ご本人が望まれるものや必要な物は職員が代行で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度、対応している。名前だけでもでもご自分で書いていただき送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁や居室の壁に季節感のあるもの飾ったり、幸い立地条件も良く、日当たりも良好で生活環境は良い。	リビングは掃き出し窓で採光も良い。フロアの一角に畳の間を設け畳に座って寛ぐこともできる。壁面、天井には入居者と職員と一緒に作成した季節感のある作品を飾り、また見当識に配慮した日めくりカレンダーを置くなど工夫している。感染症対策では除菌付き空気清浄機の設置、次亜塩素酸水を使用した要所の定期的な清掃・換気の対策を講じている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中のテーブルに座る際の組み合わせは相性を考え配置している。一人になりたい時は、居室に戻りくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話で、必要なものを最低限もってこられている。その方にあった環境作りに努めている。	居室の窓から海岸線が見え、景観に優れている。腰窓は広さも充分で採光が良い居室である。居室に火気、刃物類、高額な金品を持ち込むことを禁止している。居室には観葉植物、仏壇等といった本人の馴染みのある物や使い慣れた物が自由に持ち込まれており、職員は入居者に合わせた居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の見えやすい位置に時計を置き時間の把握をしていただくようにしている方もいます。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者単独の理念を掲げ、地域との交流、密着を地域特性を活かして勤めていっております。地域の方には認識されていると思います。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所の行事には地域の方に参加して頂いている。また、地域の行事には、利用者様、職員共に地域の一員として参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町会議員、郷長、民生委員様に参加して頂き意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果を、ホーム会議の場で職員と情報を共有しサービス向上に努めている。今年度は偶数月に文書会議(12月のみ対面会議)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に、役場健康保険課、地域包括センターの方に参加して頂き、情報交換、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了解を頂いている。ホームに身体拘束マニュアルを置いて、職員が閲覧できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止委員会を設置しており、参加した職員がホーム会議の場で持ち帰り、勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加し、権利擁護に関する知識を深めるのはもちろんのこと、勉強会などを通じてホーム内にて情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所のパンフレットを作成し、入居前には実際ホームを見学して頂き、納得されたうえで入居して頂くよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた際は、利用者様の状態、近況報告を管理者だけでなく職員誰でも出来るよう取り組んでいる。また、家族様からのご意見、ご要望はホーム会議にて共有し問題の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。また、代表者会議以外でも必要であれば管理者を通して本部へ相談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表を各職員で記載し、管理者と個人面談を行っている。その中で今後の明確な目標づくりやモチベーションアップに繋がるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに担当を持たせ責任感を養えるよう取り組んでいる。また、中堅職員には後輩の育成の必要性を唱え日々指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修など、多人数での研修、会議などに参加しコミュニケーションを取っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、職員や他利用者との円滑なコミュニケーションを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には本人様だけでなく、ご家族様も不安を抱えていらっしゃるのでは家族様ともしっかりコミュニケーションをとり相談しやすい空間づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様との何気ない会話やご家族様との会話から考える最適な支援を見極め、応えることが出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様は対等な立場であり、利用者様の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を職員と共に築きあげている。また、利用者様への役割作りを大切に生活していく中での意欲向上を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所の行事の際にはご家族様へ参加をお願いし、利用者様と過ごす機会を作る手助けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や利用者様から情報を収集し、馴染みの場所や思い出の場所へ可能な限りお連れしている。また、利用者様の中には、身内ではなく、昔なじみのご友人がいらっしゃる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、外出支援等を通して、利用者同士の交流を深める機会を増やしている。交流が苦手な利用者に関しては、職員が間に入り個別でコミュニケーションをとるなど一人一人に合ったケアを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーション(会話、談笑、レクリエーション)の中で生活に対する要望の把握に努めている。コミュニケーションが苦手な利用者様には個別での関わりをもちなるべく情報を引き出せるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される事前に初回面談を行ったり担当ケアマネージャーからの情報収集を行い、情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、生活状況や心身状態等を要約して記録に残しカンファレンスの際に、近況報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様へはそれぞれ担当の職員がおり本人様や家族様からの要望や気づき等をホームでのカンファレンス会議でケアマネージャーを中心に話し合いケアプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに毎月生活状況等を要約したものを情報共有し定期的に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の急な要望には応えられない事もあるが、前もって相談された時は極力対応するように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事参加による地域の方との交流やレクリエーション、ボランティアの受け入れ、定期的な外出支援等を工夫して行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の特性上、主治医の選択は出来ないが、受診や手術に関しては、ご家族、病院、事業所間で、よく話し合い、対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が契約する訪問看護事業所が1回/週、健康チェックを行い、職員へのアドバイス等を行える体制を確立している。また、特変がある場合には病院へ報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された際は、病院の看護師と連携を取り情報収集を行っている。また、家族様へもこまめな連絡を行い早期退院できるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居時に説明、また必要な状態の際に再度主治医を交え対談を行い、方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内外の研修に積極的に参加し、個人のスキルアップを図っている。また、どの職員でも対応できるよう、職員への指導も日々行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災時の避難訓練は立会と自主訓練(ともに夜間想定)で行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を元にやさしく、あたたかい声かけを実践している。また、一人の時間を大切にされる利用者様が増えてきたので、無理なレクリエーションへの参加の声掛けを行わない等工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話等で出た要望(買い物、外出等)に可能な限り応えるようにしている。また、外出支援の際はご自分で洋服を選んでいただくなど自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先でなく、利用者様のペースにあわせ支援していくよう日々職員には指導を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目は衣替えを行い、季節感を感じて頂き、希望者には、衣類の購入や散髪にお連れするなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員を配置することで、手作り料理を毎日提供できている。今年度は出来ていないが、誕生日などに外食に、お連れしたりする。		